



小鹿野町長 森 真太郎氏

## 町長のメッセージ

小鹿野町は、町の花であるセツブンソウをはじめ、四季折々に咲く花や伝統芸能の歌舞伎、そして平成の名水百選の一つ毘沙門水などがあり、「花と歌舞伎と名水のまち」として、多くの皆様に親しんでいただいております。

町では「文化の香り高く、小さくともいきいきとした小鹿野町の創生」を目指して、町民が主役の「町民ファーストの町政推進」のほか「町民との対話を重視した、開かれた公平・公正な町政推進」「現場主義に徹した町政推進」「積極的にチャレンジする町政推進」「文化や歴史を大切にす町政推進」を進めてまいります。

## はじめに

小鹿野町は、埼玉県の北西部に位置し、秩父市と群馬県に接している。秩父多摩甲斐国立公園、県立両神自然公園、県立西秩父自然公園などの自然公園や、日本百名山の「両神山」、日本の滝百選の「丸神の滝」、平成の名水百選の「毘沙門水」など、豊かな自然環境に恵まれている。

小鹿野町は花の町としても知られており、町の花であるセツブンソウをはじめ、フクジュソウ、花ショウブ、ダリアなど、四季折々に咲き誇る花を楽しむことができる。特に、ダリアの見頃となる9月から10月にかけては、関東最大級の規模を誇る「両神山麓花の郷 ダリア園」に多くの人が訪れる。

小鹿野町の中心部は、江戸と信州をつなぐ街道の宿場町として栄えたことから、江戸の影響を受けながら独自の文化が育まれ、祭りや歌舞伎などの伝統芸能が今に引き継がれている。豊かな自然と伝統芸能が息づき、「花と歌舞伎と名水のまち おがの」をキャッチフレーズとしている。

最近では、新たな観光スポットが注目されている。渓谷の自然美を活かした「尾ノ内氷柱」が、インスタ映えするとの評判が広まり、訪れる人が増えている。また、町内にロッククライミングの聖地である「二子山」があることから、クライミングによる町おこしにも力を入れており、2020年には町営のクライミング施設がオープンした。2021年には地域商社を設立するなど、町おこし事業に積極的に取り組んでおり、今

後の新たな取り組みも進んでいる。

## ✨役場新庁舎の建設

1966年に建設された小鹿野町役場は築後50年以上が経過し、耐震上の課題もあったことから現在、建て替え中であり、2023年3月に新庁舎へ移転予定だ。新庁舎は、間伐した町有林木材を活用した木造2階建てである。

環境性能に配慮した建物とするため、高断熱、省エネ、(太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用による)創エネを推進し、年間の一次エネルギー消費量を76%削減したNearly ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)の認証を取得している。木造でZEB仕様の庁舎は全国初である。

新庁舎にはラウンジを設け、町民が気軽に訪れることができる庁舎を目指している。最近、全国的に自然災害が多発していることを踏まえ、町の防災拠点としての機能も備えている。



新庁舎完成イメージ

## 小鹿野町概要

人口(2022年11月1日現在)	10,657人
世帯数(同上)	4,560世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	53.9歳
面積	171.26km <sup>2</sup>
製造業事業所数(工業統計)	51所
製造品出荷額等(同上)	246.0億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	130店
商品販売額(同上)	92.8億円
舗装率	69.5%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- 関越自動車道 花園ICから町役場まで約30km

## ❁ 幻想的な尾ノ内氷柱

小鹿野町を代表する冬の観光スポットは尾ノ内氷柱である。尾ノ内氷柱は、三十榎の氷柱、あしがくぼの氷柱と並び、秩父3大氷柱のひとつであり、1月から2月下旬まで楽しむことができる。冬に町を訪れる人が少ないことが課題であったが、最近は多くの人々が氷柱を見に町を訪れる。尾ノ内氷柱は、両神山を源とした尾ノ内沢から500m程のパイプを引いて、人工的に作られる氷柱だ。その規模は幅約250m、高さ60mにも及び、週末の夜間にはライトアップされる。

渓谷の手前には吊り橋があり、ライトアップされた氷柱と吊り橋(表紙写真)は非常に幻想的だ。吊り橋からも氷柱全体を見渡すことができ、渓谷の斜面に広がる氷柱は圧巻である。

尾ノ内氷柱は、「尾ノ内渓谷氷柱実行委員会」による地元のボランティアで作りに上げられている。最近では、氷柱までの道端に、竹に明かり窓が穿たれた竹あかりが設置され、一層幻想的な雰囲気醸し出される。この竹あかりも、埼玉県立小鹿野高校に通う高校生が製作したものだ。尾ノ内氷柱は、地域の人々の知恵や力により生まれた新たな観光スポットであり、自然の雄大さに加え、地域の人々の温かさを感じることができる場所である。

氷柱の出来栄は天候に左右され、気温が高い日が多い年は見ることができない。2023年には、幻想的な氷柱が見られることを期待したい。

## ❁ クライミングのまち

2020年に「クライミングのまち」の象徴となる屋内ボルダリング施設「小鹿野町クライミングパーク神怡館」がオープンした。屋内施設であるため、悪天候時にも利用できる。

神怡館の前身は、閉館が決まり、解体が検討されていた県営の「県山西省友好記念館」であるが、「残してほしい」という住民の声を受け、小鹿野町が施設管理を引き継ぎ、クライミング施設に生まれ変わった。全国から訪れるクライマーのほか、町内の小中学校の授業などにも利用されており、地元住民からも愛されている。今やクライミングは小鹿野町では馴染み深いスポーツになっている。

2021年に開催された東京五輪では、スポーツクライミングが正式種目になるなど注目を集めた。クライミングに触れる機会の多い小鹿野町の子供たちが、いずれクライミングの金メダリストに成長することを期待したい。(太田富雄、西嶋拓)



小鹿野町クライミングパーク神怡館